

2018年JAF近畿ダートトライアル選手権第6戦 2018JMRC近畿ダートトライアルチャンピオンシリーズ第6戦  
2018JMRC全国オールスターダートトライアル選抜第6戦 2018JMRC近畿ダートトライアルチャンピオンシリーズ第6戦  
大阪電通ダートアタック2018 [JAF公認No.2018-1511]

開催日：10月21日 開催場所：コスモスパーク 格式：準国内 主催：OECU-AC [クラブ登録No.加盟27019]

フォト&レポート / JAFスポーツ編集部

AE・PNクラスはダートラ20年ぶり  
復帰の都築英明選手が見事に優勝。



## 都築英明デミオ、20年ぶりダートラ復帰初戦で見事、優勝!

2018年のJAF近畿ダートトライアル選手権は10月21日、京都コスモスパークで開催の一戦でシリーズの幕を閉じた。今回の一戦は、当初、9月9日にシリーズ第6戦として開催予定だったが、2日前に現地を襲った豪雨によりコスモスパークへの通行路が寸断されたために延期となり、結果的にはシリーズ最終戦を担う形になった。

当日は天候に恵まれ、完全ドライの中、競技は行なわれ、結果、2本め勝負の様相を呈した。コスモスパークのレイアウトは、ブラインドの中低速コーナーと長いストレートを組み合わせ

たストップ&ゴーを基本としたものが多いが、今回はコースを斜めに横断してなるべく車速を落とさないセクションが設けられるなどの工夫が凝らされたものになった。ライン取りなどの、攻略法を慣熟歩行でどうイメージできるかといったあたりも勝負の鍵を握ったようだ。

まずJ1クラスはヒート1でCJ4Aミラーージュを駆る若手、藤本秀悠選手が2番手を4.7秒もちぎる1分32秒193を叩き出し、ライバルの度肝を抜くが、ヒート2、コーナーの立ち上がりで車速が乗りすぎてその後のストレートでコースアウト、リタイヤに終わってしまう。それでも藤

本選手はヒート1のタイムで2位に食い込んだ。

ヒート2で唯一、藤本選手のタイムをかわしたのはジュニアシリーズ10年めの“ベテラン”人見真弘選手。ヒート1のミスコースを挽回する快心の走りを見せた。

「斜めに抜ける所は基本、ストレートのイメージで行って後はどう姿勢を作って次に入って行けるかというのがポイントだったと思います。狙い通りには走れたと思います。最後までクルマをコントロールできたなという感じはありました」

2018年、ジュニア初優勝の勢いでチャンピ

オンも獲得した人見選手は「やっぱり練習量を増やしたこと、クルマの特性が掴めるようになってきたのが勝因だと思います」と最高の結果を残せた一年を振り返った。

ブーンX4の2台が0.17秒差という接戦を演じた地区戦N2クラスはこの



1. J1クラス優勝の人見真弘選手。2. AE・PNで3位入賞の諸江有希選手。3. Dクラス山平実選手は3位に入った。4. J2で3位に入った中村清二選手。5. N1で3位入賞の鞍岡栄二選手。6. S1で3位に入った真砂徳亮選手。7. N2で3位入賞の清水孝憲選手。



8. N1で2位入賞の近藤範明選手。9. 藤本隆選手はS2で3位に入った。10. 村田晋一選手はJ2で2位入賞。11. 執行翔太選手はJ1で3位入賞。12. S1で2位入賞の上土井康朗選手。13. AE・PNで2位入賞の坂地広之選手。14. N1は一宮頼人選手が優勝。「2本とも最後のコーナーが気合入りすぎて危なかった。2本めはリア出さずにタイヤの限界に集中して走ったのが良かった」。15. 「1本めは結構失敗したので2本めの方が全然うまく走れました」。J2で優勝の松倉健二選手。16. S1は今村太亮選手が2本ともベストを奪い、快勝。17. N2で賞状勝ちを見せた辰巳浩一郎選手。18. J1で2位入賞の藤本秀悠選手。19. N2 藤嶋義孝選手は僅かに及ばず2位。20. Dで2位入賞の金井宏文選手。21. 石田祐輝選手はS2で2位入賞。22. J1クラス入賞の皆さん。23. S2クラス入賞の皆さん。24. J2クラス入賞の皆さん。25. AE・PNクラス入賞の皆さん。26. N1クラス入賞の皆さん。27. オーバーオールVを飾ったDクラス上村智也選手。28. S2で優勝の矢本裕之選手。29. N2クラス入賞の皆さん。30. S1クラス入賞の皆さん。31. Dクラス入賞の皆さん。32. OP-Bクラス優勝の田中博選手。

クラスの第一人者、辰巳浩一郎選手が2本ともベストを奪って賞状勝ち。シリーズチャンピオンも決めた。

「2本めはちょっと乱暴な走りにはなったけど、前には出たので良かったのかな、と。1本めはデータロガー見ても、丁寧な走りすぎたなという思いがあったんで、とにかく2本めはアクセルは一生懸命踏みました。路面も良くて走りやすかったですね」と、この日のコンディションも評価していた。

この日、ただ一人、1分20秒の壁を破る1分

19秒172のタイムでオーバーオールウィンを飾ったのはDクラスの上村智也選手。全日本ドライバーの底力を見せた。

「今日のコースは、行ってみないと道が見えないところがあったりして、難しかった。乾いている硬い所を最短距離で走ることが基本的には心掛けたけど、奥で回る所なんかは今までないくらいインペタでずっと行けました。2本めも楽し走れたけど、とにかく10秒台を出せてホッとしました」

全日本の練習も兼ねて久しぶりに追いかけた

シリーズを最高の形で締め括れたことに安堵の表情を見せていた。

また今回、話題を集めたのはAE・PNクラスの都築英明選手。20年ぶり復帰の初戦を見事、優勝で飾った。

「昔はここはなかったので、もちろん、コスモスは初走行です(笑)。一応、昭和最後の近畿ラリーチャンプなんですけど、ダートに転向しなくてずっとやめてました。でも選層過ぎたら、痴ほうが始まる前にまた走りたくなったので(笑)、デモオ作ったんですけど、今日もコース覚えられなくて1本めミスコースしたんで、マズいですね(笑)。ダートのラリーも走りたいのでナビを探してまた来年も楽しみたいと思います」

その勇姿、次はラリーで拝見できるかも。復活パワーに期待したい。